

地下水保全顕彰制度とは

2013年3月22日、熊本地域における地下水保全の取組みが国連「生命の水」の「最良の水管理の取組み」カテゴリにおいて最優秀賞を受賞しました。当財団では、これを機に、熊本地域の企業・団体の地下水保全の具体的な活動や功績等について顕彰し、諸活動を称賛する制度を設けることとしました。この制度は地域で地下水保全の機運を高めるとともに、企業・団体にとって社会貢献をPRする手段として活用して頂くことで、活動の更なる促進及び評価を高めることを目的としています。

地下水保全顕彰制度のメリット

- 企業・団体の社会貢献活動のPR手段として活用できる
- 環境保全に取り組む企業・団体ブランドイメージの向上が図れる
- 将来的な環境保全に対する国際的評価につながる

ゴールド認定企業・団体インタビュー

地下水保全 顕彰制度
公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金
吉津克俊 常務理事

公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金は、顕彰事業を起点に、森林の管理・運営や棚田の水田湛水事業を行い、またDVD『水はみんなの命』を製作されています。地下水保全啓発の先駆けとなって活動されている同基金の吉津克俊 常務理事に様々な取組みについてお話を伺いました。

地下水保全 顕彰制度
ソニーセミコンダクタ株式会社 熊本テクノロジーセンター
林 眞嗣 熊本総務部統括部長

ソニーセミコンダクタ株式会社 熊本テクノロジーセンターは、湛水事業をはじめとし、地元産の農産物の購入など地域に根ざした活動を実施されています。湛水や農産物の購入など、先駆けとして地下水保全活動が行われている同社の林眞嗣 熊本総務部統括部長に様々な取組みについてお話を伺いました。

地下水保全 顕彰制度
サントリー酒類株式会社 九州熊本工場
古川勝久 工場長

サントリー酒類株式会社九州熊本工場は「天然水の森 阿蘇」など水源かん養林の整備に力を入れるとともに、様々な啓発活動を実施されています。「使用する地下水の量はかん養活動によってまかなう」という考えのもと活動をされている同社の古川勝久 工場長に様々な取組みについてお話を伺いました。

多くの啓発活動を実施されていますが、その内容はどのようなものですか

今まで学術研究者による地下水の調査研究などは進んでいますが、一般の住民向けの分かりやすいツールがなかったため、熊本の地下水の「見える化」を目的として、『水はみんなの命』を製作しました。特に意識した点は、各分野の専門家からなる製作委員会を設置し、科学性をもたせる内容にしたところです。



現在、この『水はみんなの命』を使って、学校向け、企業向け、住民向けに分けて啓発活動を行っています。学校へは、指導にあたる先生方用のガイドブックもセットにしてDVDを配布し、小学校低学年向けには、わかりやすいまもメンバーズDVDを別途作成し配布しました。

企業向けでは、大型取水企業へ直接伺い、賛同を得て、社員教育等に使用してもらっています。また、肥後銀行の行員研修でも使用しており、植樹などの地下水保全活動の意味を知ることにつながり、行員がお客様とお話するにあたり、より幅が広がるのではないかと考えています。その他、出前講座の依頼も受け付け、当財団の職員が講師を務めています。



住民向けには、昨年2つの公民館で製作委員の先生方を講師として市民講座を開催しました。今年度は、大津町、菊陽町で講座を開始しています。

またその他に、肥後銀行の支店で1週間から2週間程度、節水パネルや節水器具の巡回展示による啓発活動を行っています。

工夫されている点などありますか

啓発事業のほかに「肥後の水とみどりの愛護基金」などの顕彰事業や阿蘇地域での森林の管理・運営事業、水田湛水事業などを進めていますが、どの事業もバランスよく行っていかないと考えています。当財団は少人数のため、多くの団体や企業、行政と協力しあいが進むことにより、少人数で多くの効果がでるように工夫しています。そして広く定着するように、細かいニーズにも必ず応えるようにしています。

一各事業について教えてください

愛護賞は昭和62年から行っています。先般、各自治体へ推薦などのお願いに回りました。この賞で意識が高まり、企業や団体など地域全体で地下水保全の取組みの促進につながればと思っています。

水源かん養林の保全育成のため、平成18年から52haの「阿蘇大観の森」で11万本以上の広葉樹を植樹しています。さらに平成23年からは、3.5haを賃借し、耕作放棄地を25年ぶりに再生した「阿蘇水樹の棚田」で農業による水田湛水事業を行っています。



今後実施していきたいことはなんですか

阿蘇大観の森を管理していますが、今後、森林公園化、環境学習の場としての検討をしていきたいと考えています。もう一つは来年、肥後銀行の本店が出来ますが、その1階で文化ギャラリーの運営を行います。ギャラリーでの様々な展示に加え、ロビーにデジタルディスプレイを用意し、『水はみんなの命』を活用して地下水保全の情報発信拠点としての啓発活動も行いたいと考えています。

地元農産物の販売など地産地消を支援されていますが、そのきっかけはどのようなものですか

JA大津に協力してもらい、白川中流域でとれたお米を社内で販売しています。4年間で1.6トンの販売実績となり、約34,000トンのお米に貢献しています。最近では、くまもとグリーン農業が開始され、米だけでなく地元の農産物の販売にも広がってまいりました。



元々のきっかけは地下水かん養でしたが、地元の農業を支援することが自然環境保全へのつながりへと発展していき、とても盛況です。社員にとっても、環境意識が高まり、理解も深まる良いきっかけになっていると考えています。

湛水事業を始められたきっかけはなんですか

工場進出前に環境ネットワークくまもとから進出時の環境に対する質問状が届き、これに対し、真摯に検討し、当初は水使用量を削減する形で貢献していくことを考えておりましたが、湛水についての提案があり、受諾したのがきっかけです。今振り返ると、大変いい提案をいただいたと思っています。湛水事業に関してはとてもいい反響があり、評価もいただいております。民間企業がトライアルとして開始した小さな取組みだったものが、大きくなっていったというステップで考えると、いいプロセス展開になったと思います。

地下水保全活動を継続していく上での課題はありますか

環境活動を継続していくとマンネリ化してくることがあります。俵山で2.4haの植林をしています。イベントが終わったら一段落ついてしまい、次の目標を見つけ出すのが苦勞する点です。現在は地下水も量から質に変わってきていますが、会社がどう関わられるのか考えていかなければならないと思います。一企業として何ができるかをみつけていくのが一つの課題です。

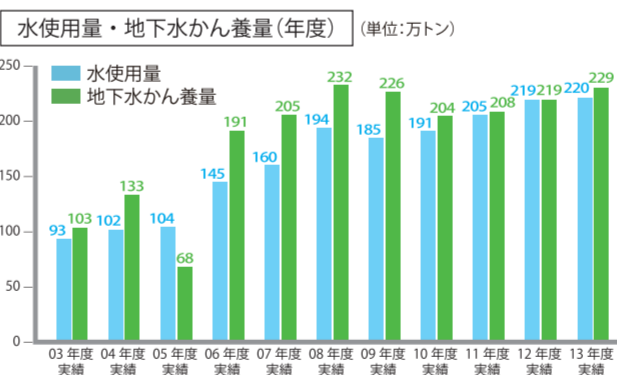


また、継続する上で、地下水かん養がどの程度まで量を確保して続けられるのかは以前から懸念しています。離農者が増えているとの問題もあるので、消費者が地産地消でどれだけ地元農産物を買って消費していくかというのことも大切なことだと思っています。

保全活動に取り組む上で、参考になるアイデア等があれば教えてください

社員全員が環境活動に興味をもってこればいいのですが、やはり温度差があります。様々な仕掛けで、1人1人に環境意識を高めてもらうように取り組んでいます。一例として、クールビズの期間には「富士山へ登ろう」という企画を実施しています。これはエレベータを使わずに階段を使用した回数を記録し、どの山まで登れたかという企画です。2ヶ月でエレベータに登った人もいます。こういったことで、環境意識をもってもらいます。

工場として製造プロセスや装置のところで節水があります。節水への取り組み方としては、部会を立ち上げ使用量の削減・施策を検討し、節水の推進体制を構築しています。



2005年は、夏場の日照の影響で、かん養日数が予定日数の半分に、かん養量も約半分に減りました。

水源かん養活動の重要性など多くの啓発活動を実施されていますが、その内容はどのようなものですか

我々は、阿蘇の外輪山の中の国有林272haを「天然水の森 阿蘇」として、水源かん養活動をしているということを一番大切に考えています。地下水がないとこの工場がなりたちません。他の工場も含めて弊社は、ビールを地下水で作るということをセールスポイントにしているため、水源となっている森についてはしっかりとかん養活動をしていくという考えのもと、活動を行っています。全国では7,600haの森林を保全活動をしており、2020年にはさらに12,000haに拡大することを新たな目標として掲げています。



地下水を増やすための活動として、益城町の津森で「冬水たんぼ」と名付けて、冬場に5ヶ月間水をためて地下に浸み込ませる活動を行っています。5haで、5ヶ月間で約50万トンの地下水が増えることがわかっています。さらに今年冬水たんぼを実施した水田で、社員による田植えの手植えをしました。無農薬栽培に挑戦し、秋には稲刈りをし、できたお米は社員食堂で食べようと思っています。無農薬でもそんなに手間なく作れるということが農家の方にも広がり、きれいな地下水を守るための活動につながっていくと考えています。このような活動は、工場見学にお越し頂いた方々にサントリーが取り組む環境活動として紹介しています。

多くの地下水保全活動を実施していることとしたきっかけや工夫していることはなんですか

工夫している点は、実際に森林整備などを実施してもらっている専門の業者ということになりますが、社員にも年1回打ち合わせを体験させて、森林かん養活動の大切さを感じてもらっています。また、一般の方々にも環境活動の大切さを理解してもらうために、「森と水の学校」を開催しています。これは「天然水の森 阿蘇」に小学生やそのご家族をお連れして、森の中の多様な生き物や植物の大切さや森林整備による地下水の保全などを勉強してもらっています。また、工場の案内係が近隣の小学校に伺い、水や森の大切さの教育(水育出張授業)を行っています。

活動のきっかけは、熊本の天然水を利用していることです。地下水がないと製品を生産できないので、永続的に熊本の地下水の量と質が保たれることを望んでいます。こういったことは、サントリーだけで出来ることでもありませんので、行政や農家の方々の協力も期待しております。



節水に取り組む上で、参考になるようなアイデアがあれば教えてください

工場では、使用した水は、温度帯別に3種類のタンクに収納し、それをまた冷却、加熱他の用途に再利用するシステムを構築しています。また、屋根に降った雨を回収し、タンクにためて濾過して、設備の冷却や樹木の散水に使用しています。

水の日記念シンポジウム

申し込みましたか?

この機会に、企業・団体が行っている地下水保全の取組みについて理解を深めてみませんか。なお、シンポジウム終了後、地下水保全の事例や情報を共有する交流会を開催致します。交流会では地下水を育む農産物を使ったお料理をご提供します。(17時45分から19時15分 会費4,000円)。

～水の日記念シンポジウム～

- 日時 平成26年8月6日(水曜日)
- 時間 15時30分から17時30分
- 場所 熊本ホテルキャッスル 2階キャッスルホール
- 定員 200名(どなたでも参加できます)
- 参加費 無料

※公共交通機関をご利用ください。

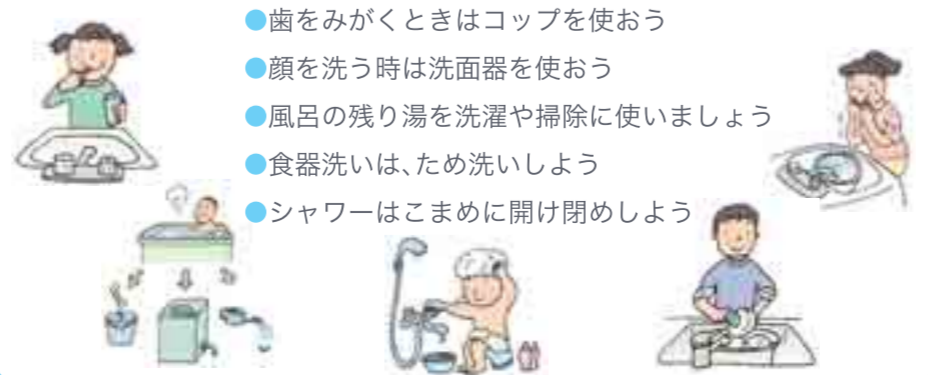
※参加希望の方は、財団事務局へご連絡ください。

あなたも今日からできる地下水保全!

ちょっとしたところが大切です。

1分間水を流しっぱなしで約6ℓの水を使います。
勢いよく流すと1分間に約12ℓの水が流れます。

節水



育水

農産物は豊かできれいな地下水を育みます。

- かん養域のお米など、地下水かん養につながる農産物を食べましょう!
※お米を作るために田んぼに水を張ることで、地下水がかん養されます。また、お味噌など、かん養域でとれたお米を使った加工品もあります。
- お米で育った「えこめ牛」を食べましょう!
※えこめ牛を食べることは、間接的にお米をたべることになり、地下水かん養につながります。
- グリーン農産物を食べましょう。
「くまもとグリーン農業」は、化学合成された肥料や農薬をできるだけ使わない土づくりを基本とした、環境に配慮した農業です。

